

政務調査 今年は常任委員会で

教育民生視察先:白川郷・高山町人街 伝統的建造物群保存のあり方を研修・調査

平成十八年度予算は一般会計、特別会計合せて三十四億五千三百四十万円規模で平成十七年二月一日単独村決定する。

平成十七年十二月ユネスコ世界遺産条約に基づき「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界文化遺産に登録される。

白川村荻町伝建群 保存地区は

昭和五十一年九月四日国の選定を受ける、当市角館伝建群と同時である、全国で七地区五市町村であった。保存に当たっては昭和四十年頃から地域住民の「保存意識、気運」が高まっていたとのこと。私を知っているのは昭和四十五年に行われた大阪万博の頃から古い町並みを残そうという声があったと聞いていたが、それ以前に保存運動があった事には感心した、昭和四十六年には「荻町集落の自然環境を守る会」発足。合掌家屋を「売らない」「貸さない」「壊さない」の三原則の住民憲章を策定し保存運動を推進している。この地域は全世帯百五十、子供を含む六百人。このように国の選定を受ける前から地域住民は地域・村に誇り

をもち、祖先の遺産を継承しながら、ここで生活をしている。生活をしながら保存する、これが「生きたままの保存」で理想の姿であると思う。

保存団体である守る会の活動は、現状変更審査・指導等を行っている。

現状変更の仕組みは、保存会の定例会で議論↓教育委員会へ申請となつていてるため違法建築は出てこないようになっている。

基金について

白川伝建群保存地区保存基金は目標三億円で昭和六十三年から始まり、平成五年で達成している。発生する利益金で修理・集景事業等に運用しているが目標額達成するには、村民の並々ならぬ熱意と努力が感じられ又全国からも守られていると思われる。

今後の課題については

規制意識、不公平意識の是正も含めた生活者の保存意識の高揚と世代交代に伴う後継者(若者)の育成、ふるさとに誇りを持つて人づくり。この問題は全国共通の課題であり真剣に取り組まなければならない問題の一つである。

観光と地域 活性化につ いて

世界遺産登録を機に、観光客数が七十万人から百五十万人へと急激に増加している。世界遺産という冠をつけることにより倍以上に入り込みが増えている、角館の武家屋敷の場合どうなるのかと想像したが見当つかなかつた。増加に伴い集落内には、土産店、飲食店など営業者が増加し地域活性化には大きく貢献し、多くの住民の雇用創出があった、と説明受けたが、当初の町並みの景観は壊れていると思つた。

現在、世界遺産集落では、集落内の観光車両の乗り入れを規制する検討をすすめている。又、滞在型観光客やリピーター増加策として、グリーンツーリズムやエコツーリズムなどの宿泊体験型の推進、地場産品の開発等にも力を入れ、世界遺産集落の保全と観光が両立する仕組みに取り組



白川郷荻町地区全体を見渡す丘にて

んでいる。

白川郷荻町伝建群は保存と活用という点では成功例と考えられるが、観光地化しすぎることにより景観保全に悪い影響が出てくると思われるが、町並み・合掌造りの保存に対する取り組みには教えられることが多く、今後の参考にしたいとおもいました。

尚、高山町人街研修は紙面の都合上省かせて頂きます。

※総務委員会は次号に掲載致します。

白川郷について

岐阜県の西北部に位置し、庄内川と国道百五十六号に沿つて十六集落が点在している。面積の九十五%が山林、農地〇・五%であるがダム七、発電所七がある。

積雪は平均二〜三m、特別豪雪地帯指定、平成十八年度は約三mであった。

人口は平成十八年四月一日現在千八百六十五人、五百六十八世帯の村であり平成二年から過疎地域指定を受けてい